



公益財団法人都市活力研究所と一般社団法人うめらくは、共同でトークイベント「キタ再発見の会」「うめらく未来ミッション」を開催します。「キタ再発見の会」は、キタエリアで多くの時間を過ごされる方に、是非キタエリアの豊富な魅力を知っていただき、もっと好きになっていただきかけとして開催しています。「うめらく未来ミッション」は実際に地域で活動している方と、地域で活動をしたい人をつなぐ交流の場として定期開催しています。未来にミッション(使命)を感じて活動する方々がつながり合うことにより、地域活性化仲間となり、実践のきっかけとなりますよう、皆様に気軽に立ち寄っていただき、夜のひとときにごストークや意見交換を愉しんでいただければ幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

第15回キタ再発見の会×うめらく未来ミッション (vol.23)

□テーマ 『地域と企業をつなぐ架け橋』
 □コーディネーター：一般社団法人うめらく 代表 山田摩利子
 □ゲストスピーカー：
 新日本コンピュータマネジメント株式会社 総務部
 事業推進担当 岩本 康男 様
 □日時 2021年4月28日(水) 18:30-20:00
 □方法 オンライン会議システムZoom ウェビナーによる開催
 今回は、「堂島」地域にスポットを当て、その地域の歴史や文化を学び、そこで働く人々と地域の方々がどのように繋がって地域を活性化していくのかを皆さんと共に考えて行きたいと思っております。

山田：岩本さんとの出会いは、上野前北区長が主催されていた日曜サロンという、北区で活動されている方々の集まりの場でしたよね。

岩本：私は1982年に新日本コンピュータマネジメント株式会社という会社に入社しました。商社の大型計算機オペレーション業務、薬品会社の生産管理システム開発、ポケットコンピュータ開発を経て、1996年より17年程携帯電話ソフト開発に従事しました。その後営業部長を経て、現在事業推進を担当し、外部団体との連携や、社会貢献(大阪市北区の区政会議委員・CSR活動)に取り組んでいます。

山田：岩本さんの会社は堂島浜にあるんですね。

岩本：現在の勤務地はアクア堂島 NBF タワーに入居しています。その1階にあるファミリーマート堂島浜店の看板の「堂」の字が消えて「島浜」となっていました。私は三重県志摩市浜島町出身なので、その名称からゆかりを感じましたので、堂島に興味が湧いてきました。それで会社の社長から「CSRをやれ」といわれたのです。

山田：CSR=企業としての社会貢献活動ということですね。

岩本：実は、上野前北区長とは区長になられる前から少し交流がありました。上野さんが区長になられたので、CSRについて何をしたらよいか聞いてみました。それで町会を紹介していただきました。そこで堂島浜1丁目の町会に入らせていただきました。ここから堂島の履歴書についてご紹介します。



山田：堂島地域を地図でみると、北は国道2号線、南は堂島川にはさまれていますね。曽根崎新地も堂島地域なのですね。

岩本：そうですね。堂島の原点は堂島アバンザのところにある薬師堂です。町会の入会の面談の際に、「堂島千四百年の歴史」という本をもらいました。これは助成金で作られた地域誌です。ちなみにこれはホームページからダウンロードできますので、ご興味ある方はご覧ください。
<https://140b.jp/pdf/dojima.pdf>

さて、100年前の堂島は「島」でした。南側の中之島をちょうど反転したような形で、中之島と堂島という2つの中洲が存在していたわけですね。昔蜷(しじみ)川という川が流れていました。

山田：興味深いのは蜷川で梅田と堂島が分かれていたということですね。

岩本：けれどもキタの大火があって蜷川は瓦礫で埋め立てられました。蜷川の名前の由来も諸説あるようですが、中之島の府立図書館にある撰津名所図会大成では、これは元来淀川の本流で川幅を縮めてつくったところから「縮(ちぢめ)川」と呼ばれ、それが訛ったとされています。

山田：こう見てみると、昔の大阪は橋が多かったのがわかりますね。

岩本：地名に橋の名前が残っているものもあります。例えば桜橋は本当に橋がありました。蜷川は埋め立てられて道路になりました。史跡としては、福沢諭吉生誕の地というのがあります。「天は人の上に人をつくらず」と書かれています。また堂島米市場の碑はリニューアルされて米のモニュメントになっています。さらに新地の入り口に「国産ビール発祥の地」の碑もあります。こういうのも調べていくとドラマになるようなすごい物語があります。



岩本：次に堂島の人口のお話します。2019年の住民基本台帳と2015年の国勢調査のデータを比較しています。

山田：急激に増えていますね。

岩本：人口も世帯数も増えていますので、マンションが増えていると思われるかもしれません。ちなみに堂島浜1丁目、2丁目の住民は0ですが、事業所はたくさんあります。従業員数は合計で17,292人となっています。

山田：北区の事業所の約10%が堂島地域に集まっているということですか。堂島浜1丁目、2丁目にそれぞれ町会があるということですか。

岩本：私の会社は堂島浜2丁目なのですが、2丁目に町会がないので1丁目の町会に入れていただいています。続いて堂島の見どころのご紹介です。大阪三菱ビル、ANA クラウンプラザホテル、堂島アクシスビル、東洋紡ビルディング、アクア堂島など。クラブ関西は昔造幣局だったそうです。古川堂島ビルは建て替えの計画があります。

山田：これから開発が始まるということですね。

岩本：ここから堂島の地域活動についてご紹介します。先ほどの地域誌にも年中行事などが詳しく書かれています。堂島地域で活動されている地域団体は堂島地域活動協議会、堂島連合振興会、堂島地域社会福祉協議会、堂島地区民生委員児童委員協議会などですが、私も知らなかったのですが堂島・北新地プライドの会というのができております。メンバーは昔からここで生活をされていて地域の移り変わりを見てこられた方々です。

山田：地元の方と地域の企業でいっしょにまちづくりを推進していきましようという会ですね。岩本さんが地域活動で立ち上げられた御堂筋FANFUNについてもご紹介いただけますか？

岩本：毎週第1土曜日に、ANA クラウンホテルの前にある堂島第1公園を掃除しています。2017年ぐらいから御堂筋FANFUN倶楽部を結成して他の団体と協力しながら活動しています。

山田：これに参加しているのはどんな方々ですか。

岩本：地域の方が多くですが、誰でも入れます。コロナ禍で中止していて、再開の目途は立っていませんが、感染者数が落ち着いてきたら再開しようという話はしています。

山田：御堂筋FANFUN倶楽部に入りたいという人は岩本さんにご一報

ください。 [https://www.facebook.com/御堂筋 fanfun-598543487169195](https://www.facebook.com/御堂筋fanfun-598543487169195)

岩本: 企業としての地域との関わりについてご紹介します。弊社は、「まち美化パートナー制度」に参加しています。

山田: CSR を排除から始められる企業というのが多いですね。

岩本: 一番簡単だからです。そこから大阪マラソン団体ボランティアや、北区とは外れますが、堺の共生の森の維持もしています。

山田: 会社が CSR 活動をする意図というのはどういうものなのでしょうか。

岩本: それは地域貢献というのが大きいですね。会社の名前を知っていただくことにもつながります。ここから、地域の課題と対応についてお話しします。ここに、自治会・町内会の行事というのは、一般的にこんなことをされていますよということが書かれています。堂島で行われている地域活動とも似ていますが、だいたいこんなことで収まっています。次に、「加入率低下、担い手不足に悩む、自治会・町内会の課題とは」という文献がありましたので参照しています。加入率の低下、担い手不足、魅力不足、負担の増加など、地域によって違いはあると思いますが、日本全国どこも同じような課題があると思います。一方、社会からは近年、何をしているのか不明であるとか、メリットがわからない、一部の人でやっているイメージがある、会計が不透明、役を押し付けられるなどといった不満や不信の声が寄せられていると一般的に言われています。

山田: 不満を訴えている人は町会に入っていない人たちですか。

岩本: 入りたくても不安で入れない人もいます。次にボランティア活動をしてみたい方へということで、大阪市のボランティア・市民活動センターのホームページに掲載している内容です。ここにボランティアの定義が書かれていました。自発的に行い(自主性)、活動の見返りを求めない(非営利性)、社会や福祉を高めようとする活動(社会性)が必要ということです。また、活動する自分自身も様々なことが得られるということが一番大きいと思います。

山田: 岩本さん自身も活動されてこのように感じられたということですね。

岩本: ボランティア活動で得られる大きな利点は、人脈です。それを通じて生活していく上でいろいろなメリットが得られます。それはなぜかということ、例えば町会長に相談ができたり、それによって物事が改善されたりすることがあります。ボランティアはそのとっかかりだと思うんです。町会に参加してからなじんでいくまでだいたい3年から4年かかります。去年の暮れにやっと山本会長に名前を覚えていただきました。

ここからは、私が4年ほどやってきて思ったことを述べます。常に、自分に問いかけないといけないことは、この取組(活動・イベント・サービスなど)は、何のために、誰(ターゲット)に、どのような価値(メリット)を提供するのか。それを問いかけることでやるべきことが見えてくる。2番目に誰か不利益を受ける人はいないかということを考える想像力が大切です。例えば音楽イベントをするときに、近所からうるさいといわれることを想像して最初に謝っておくと大きなクレームになりません。3番目に手段ではなく目的(ビジョン)がしっかり共有できているかということです。例えば机をここに動かしてくださいというのは手段です。この会場はなんのために設営するのか、最終形態はどうなるのかというのをみんなで共有しておけば、各自で動けます。手段を指示されると嫌がります。取組を実施するのが目的ではない。その先にあるものは何なのかというのをちゃんと考えましょうということです。一番気になるのは、今までこうしてきたから、ではなく皆のためにどうあるべきかを考えるということです。やはり多様性を認めて、なんでも歴史・文化・しきたりのせいにしないことです。

現在の仕事から思うことについて、DX(デジタルトランスフォーメーション)についてお話ししようと思ったのですが、時間がないので省略します。

最後に、ある方から私に伝授されたことをお話しします。イノベーション(改革)には、PDCAではなく、DPACが必要とのこと。夢に向かい(Dream)、情熱(思い)をもって(Passion)、積極的(前向き)に(Active)、挑戦を続ける(Charenge)ということです。私からのお話しは以上です。

山田: ありがとうございます。ご質問がありましたら、チャットの方にご記入ください。

〇〇〇質疑応答〇〇〇

三本松: 岩本様、今日はどうもありがとうございました。私にとって堂島地域で印象に残っているところは中央電気倶楽部です。また都市活力研究所と大阪大学は以前、梅田と中之島をつなぐというテーマを掲げて共同研究を行いました。そこでその間にある堂島地域に点在する広場を有効活用できないかと考えていました。今後住民も増えてきますので安心して暮らせる街にすること、まだ働いている人も仕事をして疲れて帰るだけではなくもう少し潤いの感じられる場所にしていくことのために何をすればよいかというのを想像することが、先ほどの岩本様のおっしゃった、イノベーションの源泉である「夢」ということになるのではないかと思います。その「夢」の発想というのは自治会の活動の延長線上にはないように思いますが、どのように発想を転換していけばいいのか、大阪人的にいう「いちびり」の発想はどうやったら持てるのか、ご意見を伺いたいと思います。

岩本: 私がシステム開発をやるうえで役にたったのが、慶応大学のシステムデザインマネジメント研究室というところの取組みがすごく勉強になります。固定観念をなくして発想を広げられるだけ広げる必要があります。DXでも実現するために一番変わらないといけないのは人間なのです。私が作った言葉ですがヒューマンマインドトランスフォーメーションというのが一番大事です。前にやっていたことを新しい手段でやるだけではイノベーションは起こりません。1日1つイノベティブなサービスやものを見つけるということをやっただけで半分固定観念が外れます。皆さんも試してみてください。その時に先ほどお話ししたように、誰に、どのようなメリットを与えるためのサービスなのかを常に考えると、ターゲットとソリューションがうまく結びつきます。

会場: 何か先進的な事例があれば紹介してください。

岩本: 今私が直近でやっているのはマルチセンシングデバイスの開発です。1cm×5cmに6つぐらいのセンサーを入れて持ち歩くといろんなデータが取れるというものです。これを身につけていると温度、湿度、明るさなどの環境がどのように変化しているかが記録されます。それで人間が環境の変化によってどんな影響(体温など)を受けるのかわかるのです。それを簡単なプログラムで動くデバイスを開発しようとしています。

会場: 堂島は道路と川が並行しているので川への親和性が低いと思います。今日ボランティアによるまちづくりのお話がありましたが、例えば道路を封鎖してイベントをやってみるとか、地域の方々や学生さん、コロナで困っているようなお店の人たちと、場の力を南につなげるということにより川と親和性のあるまちづくりができるのではないのでしょうか。何か若者を引き付ける取り組みはできないでしょうか。

岩本: クラーク記念高等学校という学校がありまして、その生徒が地域の活動に参加してくれています。課題は30歳~40歳ぐらいの中間層が参加していないことです。

三本松: 岩本様のお得意とされるICTはスマートシティの展開につながるの期待するところ大です。これをどう利用するかは地域の課題をどう見つけるかにかかっていると思います。例えば空き巣の被害をなくす照明ができないか。そんなアイデアがたくさん集まるような場所になればいいのではないかと思います。

